

事業概要

ふりがな 応募者名	いしかわけんおくのとどぼくそうごうじむしょ 石川県奥能登土木総合事務所
ふりがな 事業の名称	としけいかくどうろ かまやだにつかだせん がいろじぎょう 都市計画道路 釜屋谷塚田線 街路事業
ふりがな 事業主体	いしかわけん 石川県
ふりがな 実施都市名	いしかわけんわじまし 石川県輪島市
事業概要 (400字以内)	本事業は、石川県北部の能登半島に位置する輪島市の中心商店街である「まんなか商店街」において、賑わい創出を図るため、安全で快適な歩行空間の確保および街並み景観の向上を目的に、石川県が平成24年度より、道路拡幅とあわせた歩道整備や無電柱化整備に着手し、平成30年4月に完成させた。 整備にあたって、歩道には、日本を代表する漆器である「輪島塗」をイメージした黒色と朱色を配色するとともに、輪島塗を展示する空間を備えたフットライトの設置などの創意工夫を行った。 また、県の街路整備にあわせて、輪島市と地元では、沿道に立地している輪島塗に関連した施設である「輪島塗会館」および「漆の里交流館」のリニューアル整備を行い、さらに、住民が主体となり、「輪島・まんなか漆ロード再生事業まちづくり協議会」を設立し、沿道建物についての修景ルールを定めた「まちづくり協定」を策定し、漆を感じる街並み景観の形成に取り組むなど、県、市、地元が三位一体となり取り組んだ。
事業規模	○事業延長:L=270m ○事業費:C=1,422百万円 ○幅員:[一般部]W=12m、[交差点部]W=15m ○事業期間:平成24年度～平成30年4月
事業の目的	輪島市の中心商店街である「まんなか商店街」において、賑わい創出を図るため、安全で快適な歩行空間を確保し、街並み景観を向上させること
事業効果 (効果一覧を参考に 具体的な効果を記入)	・歩道整備および無電柱化整備による安全安心な歩行空間の確保および街並み景観の向上 ・賑わいの創出
地元対応等 ・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	・輪島市が沿線に立地している「輪島塗会館」を、地元が「漆の里交流館」をリニューアル整備 ・住民が主体となり、「輪島・まんなか漆ロード再生事業まちづくり協議会」を設立し、沿道建物について、輪島の伝統的な建築デザインを採用するとともに、古代朱をアクセントカラーとして使用するなどの修景ルールを定めた「まちづくり協定」を策定

事業位置図

位置図

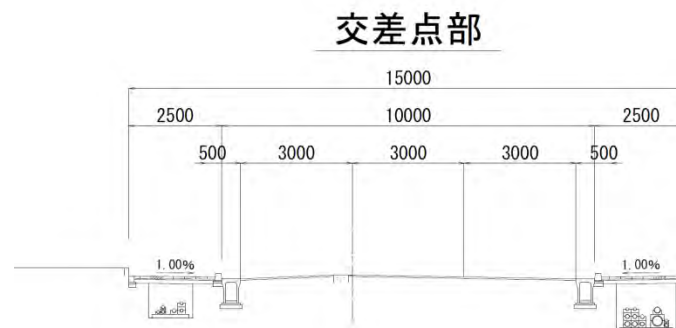
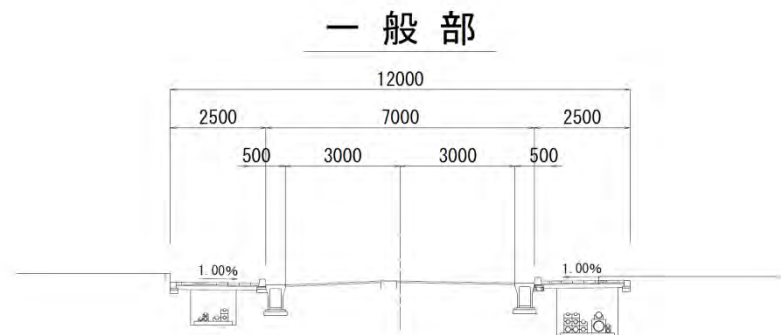
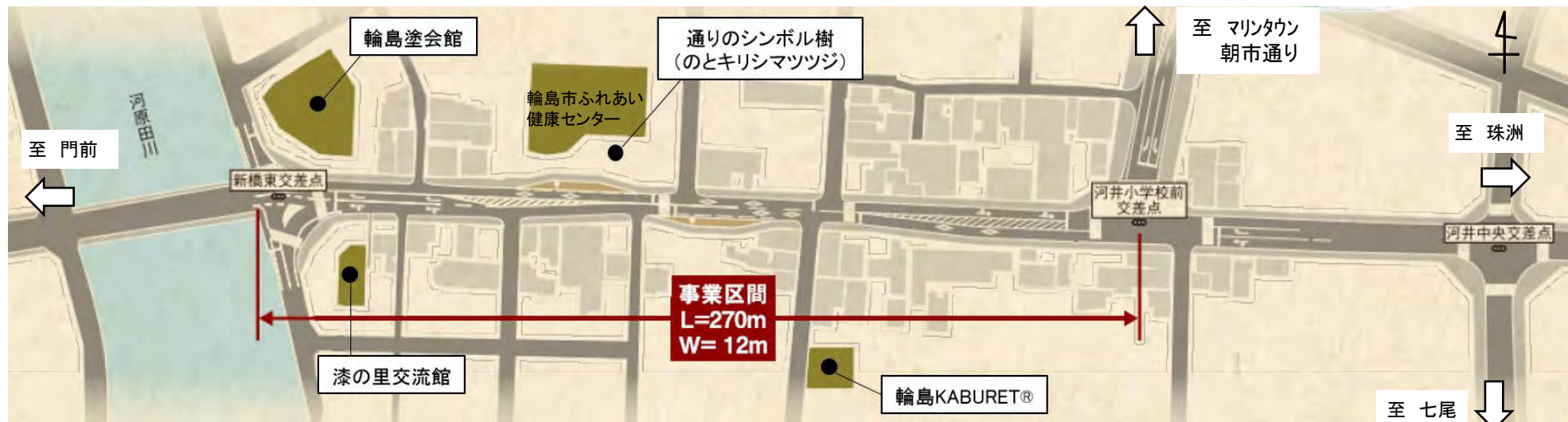


都市計画図(用途地域図)

凡 例	
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	準工業地域
	特別用途地区
	地区計画区域
	準防火地域
	容積率 建ぺい率
	都市計画区域界

(都)釜屋谷塚田線 街路事業

全体図(平面図・横断図)



事業前写真



平成23年5月撮影



平成23年5月撮影



平成23年5月撮影



事業後写真



平成30年5月撮影



平成30年5月撮影



平成30年5月撮影

(都)釜屋谷塚田線の事業効果アピール資料

<街路整備による街並み景観の向上と安全で快適な歩行空間の確保>

事業前



事業後



輪島塗の黒・朱を配色した歩道



キリコ型の灯具



漆器などを展示する空間を備えたフットライト



整備後の夜間景観

(都)釜屋谷塚田線の事業効果アピール資料

<販売の創出>

輪島市・地元による沿道施設のリニューアル整備

輪島塗会館



漆の里交流館



地域住民によるまちづくり協議会の取り組み



まちづくり協定に基づく伝統的な蔵づくり浜屋づくりを
組み合わせた沿道の景観整備

沿道住民が協力し
のとキリシマツツジの鉢植えを設置

事業の完成を記念して植樹された
シンボル樹（のとキリシマツツジ）

無電柱化と 拡幅工事完了

輪島・釜屋谷塚田線



県は、輪島市河井町の都市計画道路「釜屋谷塚田線」270区間の拡幅工事で無電柱化を完了した。複線

の輪島塗関連施設が立地する市中心部の道路で、住民や観光客がより快適に通行できるようになった。

県は2012年度から工事に着手。道路を1.5倍拡幅し、12区として新たにバスの停車スペースや右折車線を設けた。

このほか県は5月末に、県道庵橋浦大田新線の七尾市庵町―江泊町間820mでバイパス工事を終え、2車線の道路を開通させる。従来はバイパスより西側の集落の間を通る1車線の道路を使っていたため、住民の安全確保につながる。

北国新聞
平成30年5月1日(火)

広く、無電柱、花美しく

輪島「漆ロード」完成式典

輪島市の都市計画道路「釜屋谷塚田線」で河井町のまんなか商店街を通る「まんなか漆ロード」の完成記念式典は27日、沿道のふれあい健康センターで行われ、地域住民や県、市の関係者が70区間の拡幅と無電柱化の姿を祝った。

県は輪島市河井町地区からの回避性向上、「漆の里」の街並み景観創出へ、2012年度から幅12mの拡幅や、輪島塗の黒と朱を配色した歩道整備に着手し、今年4月に完成した。総事業費は1億2000万円となる。地元では再生事



の鉢設置に努めてきた。式典には谷本正憲知事、梶野秋市長らが出席し、センター前に植樹した樹齢230年ののどけりシマツツジを除幕した。福田和徳協賛会長は「漆器店が集まる通りであり、漆文化の魅力を発信したい」とあいさつした。

完成記念フェスタも行われ、輪島和太鼓虎之介などの太鼓やダンスなどのステージ、屋台でにぎわった。

除幕したのどけりシマツツジを背に、まんなか漆ロードの完成を祝う出席者

輪島市河井町

北国新聞
平成30年5月28日(月)